

地震の記憶

今泉を歩く

匠 探訪

-70-

昨年の東日本大震災から早1年になろうとしています。被災地は壊滅的な被害を受け、自然災害・大津波の恐ろしさが強く印象付けられました。

県内で被害が出た大地震といえ、1987年(昭和62年)12月の「千葉県東方沖地震」、1923年(大正12年)の「関東大震災」、309年前に起きた1703年(元禄16年)の「元禄関東地震」などがあげられます。

昭和62年の「千葉県東方沖地震」発生直後から国や県、研究機関などから旧八日市場市



野田地区今泉にある稲生神社

にも過去の地震被害についての問い合わせがありました。当時、市史編さん調査の中で被害を示す記録は見つかりませんでした。が、ガリ版刷りのもので、元禄地震の際に「今泉村周辺の古記録に、字砂子^{いさご}まで津波が来た」という記述を見た記憶が筆者にありました。

この地震は、1703年12月31日(元禄16年11月23日)の午前2時ころ、真冬の深夜に突然、大きな揺れが関東地方を襲いました。

「元禄関東地震と呼ばれ、現在の千葉県、神奈川県、東京都などで大きな被害が出たとされています。被害状況は定まっていませんが、死者数1万人以上で房総が6割を超える6500人余、県内での家屋の倒壊9610軒、流失5295軒(『防災誌・元禄地震』による)とされます。

この地震による津波が九十九里沿岸にも押し寄せ、記録の字砂子を飯倉(豊菜地区)にあててしまいました。その後

同じ地名が栢田と今泉(野田地区)にもあることを知り、こちらの方が適切と考えることにしました。

ところで、このガリ版刷りが何であったか、記憶をたどっても再び見ることがありません。昭和40年に出された『野さか』には、「元禄十六年、関東地方で大地震あり、大津浪に襲われた。栄地区の人々は飯倉山へ避難した。野田地区の人々も八日市場の方へ避難したであろう。逃げ遅れた人々を集めて葬った所が海岸にある「千人塚」と伝えられる」と書かれています。

また同46年出版の『野栄町百年史』には、1707年10月の東海地方から九州にかけての大地震と同11月の富士山噴火について、「七日間、(富士山噴火の影響で)闇夜にして、諸国大地震にして富士山噴火あり」とあります。

平成21年に今泉区の稲生神社が改修され、その際元禄地震前の1652年に現在地に建てられたことがわかりました。ここに地震・津波の記憶をよみがえらせるヒントがありそうです。

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080